

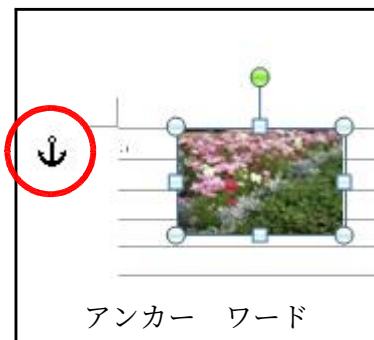
センセイコール (14)

16) オートシェイプを挿入した (動かした) ら、画面 (それまでのレイアウト) がめちゃくちゃになった

授業ではよく、オートシェイプ、ワードアートや、クリップアート、図 (写真) などをいっぱい配置して作品を作ります。このとき、新しく図などを挿入したり、すでにあるものを移動したとたん、他の図などの位置が一斉にずれてしまうことがあります。

これは、アンカーと呼ばれる、図や画像を文中に配置するための目印のイタズラによるものです。

通常、文書に図などを挿入する場合、文中には、それらについての説明があります。文書作成で、文を追加したり削除したりして、図と説明とが離れてしまうことがないように、図ごとに、どの段落にくっついているかという目印が置かれます。これがアンカーです。ワードでは錨のマーク、一太郎ではピンの形のマークです。



ワードでオートシェイプを挿入しただけ (文がない) だと、全ての図のアンカーが一つの段落 (先頭の改行マーク: 段落記号) にくっつきます。従って、新たに挿入した図や、移動した図がこの段落記号を押しやってしまうと、この段落にくっついていた図全てが、段落記号のずれに従って移動してしまいます。初めの段落記号の上に、新たに図を乗せないように、という意味は、ここにあります。



アンカーの置かれる段落は、図を移動するのに従って次々と変わっていきます。従って、Enter キーをたくさん押ししてしまったとき (段落記号がずらっと並んでいるとき) は、図の移動や挿入によってどの段落記号にどの図が結びついているかを意識しておかなくてはなりません。

ワードの場合、図の移動などで思わぬレイアウトの崩れに遭遇するのは、こういった理由によります。また、ワードでは、段落記号を削除すると、その段落にアンカーのある図も同時に削除されてしまいます。

こういったトラブルを回避するためには、特にワードでは、むやみに Enter キーを押して改行しない、図の挿入や移動で段落記号をずらさないようにする、などの注意が必要です。